

計画策定にあたって

北設楽郡総合交通システム「おでかけ北設」は2010年1月に始まり、その後少しずつ改善が進み、一定の成果を挙げつつある。

それまで北設楽郡3町村の公共交通は、町村ごとにバラバラに運行され、郡全体を結びつける「網」になっていなかった。この結果、田口高校や東栄病院といった公共交通で行きたい人が多い主要施設へ郡内各地から行くことが困難であった。せつかく地域にあるのに行けないのでは意味がない。公共交通が不便だからといってクルマに頼りきった地域になれば、自家用車を自由に使えない人が住み続けることはできなくなる。そういう地域では人口減少を食い止めることはとてもできない。都市部並みの便利な公共交通をつくるのは難しいとしても、郡内で様々行われている輸送をうまく組み合わせ「網」をつくれば、「おでかけ」する機会が増え、主な行先となる施設も活用され維持され、地域の衰退を遅らせることができる。この役割を果たすべく「おでかけ北設」がつくりだされたのである。

「おでかけ北設」の運営をつかさどる北設楽郡公共交通活性化協議会に参画して7年半、「まとまると力が出るけど、まとまるためには力がある」ことをずっと感じてきた。「おでかけ北設」を構成する公共交通は、各町村営バスだけでなく、JR飯田線、豊鉄バス、タクシー3社、白ナンバー車両による有償運送があり、それぞれが別個の組織で運営されている。これらを「網」にするためにルールをつくり運用していくことは並大抵ではない。しかし、各組織から協議会にご参画いただき、活発な議論を通じて意識を共有し、協働して「網」の維持発展を進めてきたことは、この地域にとって大きな財産となっていくだろう。実際、田口高校も東栄病院も行きやすくなり、移動パターンの変化につながっている。

一方で「おでかけ北設」維持には、事務局を務める各町村担当者様を中心として多くの労力を要している。そして、人口減少・超高齢化の進展が止まらない中、住民のきめ細かいニーズや観光・インバウンドを意識して利用を増やす取組を、運転士や財源の不足を乗り越えて進めていかないといけない。そのために、今までの体制や方針の見直しも必要となっている。

このような状況を踏まえながら今回策定された「北設楽郡地域公共交通網形成計画」は、2009年に策定され2013年に改定された北設楽郡地域公共交通総合連携計画の再改定版であり、「おでかけ北設」を今後どうしていくかの方向性がまとめられている。計画が実施される3年間で、私が最も望むのは、北設楽郡内のすべての皆様に「おでかけ北設」を「他人ごと」でなく「我がこと」ととらえていただくようになってほしいということである。正直なところ、自家用車で自由に動ける方々の多くにとって公共交通はどこか他人ごとだったのではないだろうか。でもそれではもう済まない。この地域が、いつまでも住み続けていける、外から気軽にお越しいただけるために、だれでも「おでかけ」できる状況を維持発展させること

の大切さをご理解いただき、さらにそれを支えるための何かをしていただきたい。それこそが公共交通を強くし、地域をしっかりと支える「網」となるための唯一の道である。



北設楽郡公共交通活性化協議会委員・座長
(名古屋大学大学院環境学研究科准教授) 加藤博和